

## 上部頸椎専門 10

# カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会正会員 七里 浩\*

上部頸椎1ヶ所のアジャストメントによる身体の変化を臨床例から報告しています。今回は高齢者のアジャストメント後における姿勢変化を取り上げてみました。

臨床におけるルールは以下のとおりです。

1. 病気・症状の診断、治療は行いません。
2. 必ず検査を行い、上部頸椎のサブラクセイションの有無を確認します。
3. 検査の結果、上部頸椎にサブラクセイションがなければ、アジャストメントは行いません。
4. 他の療法との併用、健康器具を使用しないで様子を見て頂きます。

### “加齢と共に背骨は曲がる”

これは二足歩行で生きる人類の運命<sup>さだめ</sup>であろうか。

鏡に映った自分の姿勢に気を落とし、病

院で老化現象と告げられ納得する。老化が原因であれば回復は見込めない、なぜなら年齢は若くならないのだから。

上部頸椎専門カイロプラクティックを受けて姿勢が良くなると、まず自分よりも家族を含めた周りが驚くようだ。それなら私も受けようと来院される方も多い。しかし上部頸椎専門カイロプラクティックは姿勢を良くする為の治療ではない。姿勢の改善はあくまでその人自身を生かす力の源であるイネイトがもたらした結果のひとつに過ぎない。とはいえ長い年月を経て至った姿勢、それが首の1ヶ所の調整で変わるなんて、そんな都合の良い話はないと思われるかもしれない。そこで、今回は姿勢の写真を通してそれを検証する。

\*七里 浩 (しちり・ひろし)

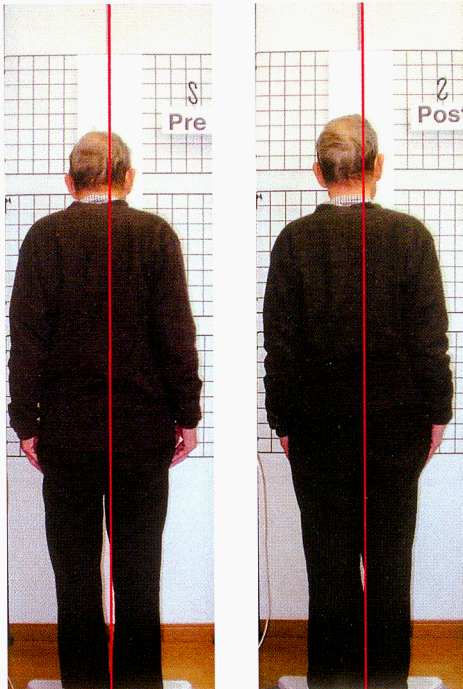
●連絡先: 七里カイロプラクティックオフィス  
〒604-8352 京都市中京区蛸薬師通堀川西入金屋町773-2  
TEL & FAX. 075-803-6150  
協会HP: [www.specific.jp](http://www.specific.jp)

## □症例□

## 頭部が前方へ突き出した姿勢の男性

性別：男性 年齢：84歳

初回・来院1回目 2005.3.30



アジャスト前

アジャスト後

## ●アジャスト前の検査・所見

伏臥において左足が1 cm短い。

仰臥において左足が0.5cm短い。

仰臥における両手挙上で左手が1 cm短い。

頭部を前方に突き出した姿勢。

生理的彎曲を保てていない為、腰背部へ負担が大きいと見当がつく。

仰臥位では枕をあてがわなければ寝られ

ない。

突き出した頭部を支える為に頸部の筋肉の緊張が著しい。

体幹は大きく左へ傾いている。

上部頸椎リステイング AILA でアジャストして、休息用ブースで40分間休んでいただく。

## ●アジャスト後の検査

伏臥において左足が1 cm短い。→揃う

仰臥において左足が0.5cm短い。→揃う

仰臥における両手挙上で左手が1 cm短い。→揃う

姿勢は少し頭部が持ち上げられた程度である。

上部頸椎部のサブラクセイションパターンは残る。

2回目 2005.5.7

前回アジャストより約1ヶ月後

## ●検査・所見

前回アジャスト5日後くらいから背部の後彎が良くなってきたとのこと。しかし、姿勢の変化は感じられない。

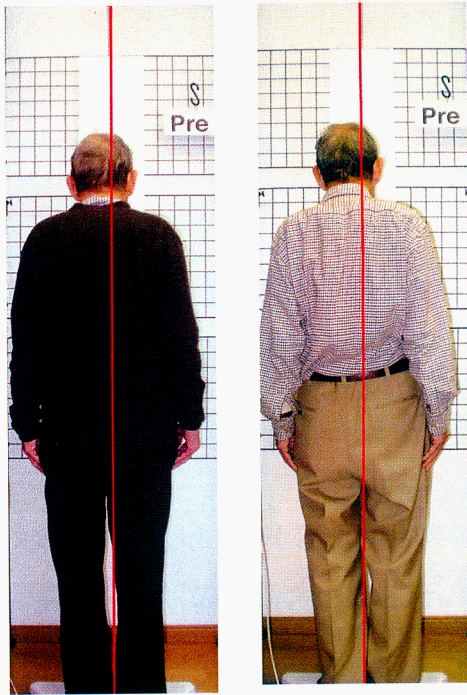
伏臥において左足が1 cm短い。→揃っている。

仰臥において左足が0.5cm短い。→揃っている。

仰臥における両手挙上で左手が1 cm短い。



→揃っている  
上部頸椎部のサブラクセーションパターンは改善している。



初回アジャスト前

今回の姿勢

2回目 2005.5.7 アジャストせず

3回目 2005.7.13

アジャストより約3カ月半後

#### ●検査・所見

姿勢が前回（5/7）よりかなり良い。前回、姿勢はアジャスト前の状態に戻っていたが手足のズレがなく、サブラクセーションパターンの再現もなかった。このような時は如何なる場合でもアジャストは行わず、イネイトに任せる。その後の結果をみて、イネイトの調整が最良の

結果をもたらすと確認できるのである。しかし、今回はサブラクセーションパターンの再現がみられ、足の長さは揃っていたが手の長さには差が出ている事を確認した為、サブラクセーションありと判断した。



初回アジャスト前

今回の姿勢

上部頸椎リステイング AILA でアジャストして、休息用ブースで40分間休んでいただく。

#### ●アジャスト後の検査

手の長さは揃う。  
サブラクセーションパターンはまだ残っている。

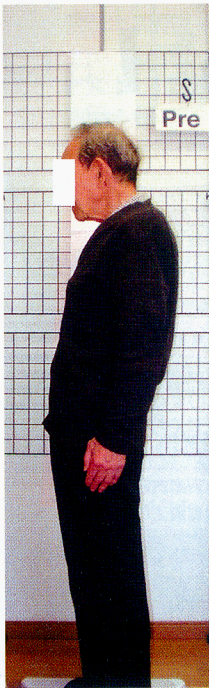




初回アジャスト前



今回のアジャスト後



初回アジャスト前



今回のアジャスト後

姿勢の変化は一目瞭然である。

約3ヵ月半の間に2回のアジャストメントで患者さんのイネイトがもたらした結果である。そこにはアジャストを施す者、アジャストを受ける者の姿勢を良くしようという意志は一切含まれていない。

以後、2006年8月までに2回アジャストしているが、以前のような姿勢の歪みはないままで過ごされている。

老化だから治らないと考えている人は少なくないだろう。しかし、誰もが加齢を避ける事はできない。生きている限り時間の経過と共に老化する。

ただ、希望もある事を忘れてはならない。

症例の患者さんも初めて来院されてから臨床レポートでは3ヵ月半、現在では更に2年以上経過している。

上部頸椎専門カイロプラクティックでは老化を理由に良くなることを諦めている人に自信を持って伝えます。

「年を取る（時間が経過する）からこそ、良くなっていくのです」と。

